



表紙写真は東部宮農経済センター甘諸部会 齋藤雄志部会長。東部宮農経済センター甘諸部会は販促・宣伝用ポスターを6年ぶりにリニューアルしました。ポスターは全部で4種類あり、市場を通じて、仲買店舗、量販店、スーパーなどに飾られます。写真の趣や、色、テーマなど、すべてが異なった4パターンの多種多様なポスター。

特に目を引く1枚は、甘諸の1本1本の写真に生産者の笑顔の写真が貼りついており、ポツプどこか不可思議な感じのする仕上がりになっています。(表紙写真で部会長が手にしています。)

当初、同部会役員らがサンプルを見たときは、「甘姫のイメージが悪くなるのでは」との声もありましたが、若手職員の「インパクトが大切。目を引くデザインが良い。まずは、興味を持ってもらうことも大切。」との意見を取り入れ、採用されました。

齋藤部会長は、「自分たちより、若い人の感性を信じてみた。市場関係者や、消費者も自分達より若い世代になっていく中で、若い人の意見を取り入れることも大切だ。」と柔軟な姿勢を見せられました。

部会では、ブランドのPRの他にも出荷時の選別・検査にも力を入れ、品質の均一を図るため、全部で13段階にランクを細分化しています。

今年度は約3千2百トンの出荷、目標販売金額は8億9千万円を予定しています。

継続した土壌診断で品質維持



▲堀さん⑥の処方箋をもとに施肥指導を行う佐藤指導員⑥

東部宮農経済センターでは甘諸の収穫終了時期に合わせて、土壌診断を毎年実施し、データをもとに施肥管理の指導を行っています。

同センター川内甘諸部会では、なると金時「甘姫」を出荷しており、土壌診断はブランドの品質維持、生産拡大、施肥にかかる経費削減に役立っています。

希望点数に上限はなく、各生産者が1圃場4〜5カ所の地下10〜15cmの土を採取しJAに持ち込み、検体は、全農とくしまを通じ、研究機関(広島県)に分析を委託しています。

分析データから、pH、EC、りん酸、加里、苦土、石灰が適正値よりどの程度、過剰、不足しているかが「処方箋」として明確化され、営農指導員がそれをもとに一件一件、生産者を訪問し、フィードバックしています。

この土壌診断をもとにした指導は16年前から続いており、生産者からは好評を得ています。

同センター 佐藤徹也指導員は「毎年、継続して行ってもらうことが大切。継続することで、土壌の特徴や改良剤投入後の変化がわかってくる。」と話します。

毎年、土壌診断を受けている同部会堀正実さんには「処方箋は甘諸作りの指針になる。」と評価されています。

この取り組みは管内の優良事例として他の品目にも広がっています。今年度の土壌分析、処方箋による指導巡回は、ブロッコリー、カリフラワー、菜の花で167検体、イチゴ40検体、人参28検体、きゅうり12検体を実施しました。

とくしまマルシェに出店しました。



青壮年部 加藤正憲部長と東亮司副部長は、2月28日に開催されたとくしまマルシェに出店し、消費宣伝を行いました。出店ブースでは甘藷、カリフラワー、滑東ネギ、れんこん、いちごがお手頃価格で販売されました。

▲消費宣伝を行う⑥加藤部長、⑦東副部長。

女性部が「家の光」で 遊山箱を紹介



2月5日、女性部林容子部長と、豊田三代子副部長、丸井明副部長、井上博子副部長は、「家の光」で連載中の『きらりハローモー』の取材を受けました。今回はコロナウイルス感染症予防対策として、人数を制限し取材に応じました。

この企画では、地域を元気にする女性たちやグループの活動を紹介するコーナーで、今回は江戸時代から徳島に続く文化の一つ「遊山箱」に注目。女性部で「遊山箱」の伝統文化を絶やさず守り伝えようとする姿が掲載されます。

取材当日、林部長らは柏餅や赤飯などを調理し、色とりどりのご馳走を詰め合わせ、豪華で気持ちも華やか見事な遊山箱を完成させました。



【写真右上は「家の光」のライター取材に答える(左)林部長。

写真左上は、眉山を背景に撮影。右から、井上副部長、豊田副部長、林部長、丸井副部長、本浄事務局。(※撮影用に一時的にマスクを外しています。)

写真左下は、出来上がった遊山箱のご馳走を撮影している様子。】



ほうれん草のレシピを ゴジカルで紹介



2月25日放送の四国放送テレビ「ゴジカル」の「JA共済プレゼンツ笑味ちゃん通信」でほうれん草が紹介され、北井上支所女性部豊田三代子部長と関野啓子副部長は、2月10日に取材を受けました。

森本晴香アナウンサーと共に「ほうれん草のチヂミ風」と「ほうれん草のベーコン・生ハム巻き」の2品を紹介されました。

「ほうれん草のチヂミ風」の調理ポイントとしては、生地が水っぽくならないように、茎の部分を使用すること、またアクセントとして、生地を焼くときに、フィッシュユカツとさくらえびを散らして入れると、見た目も華やかに、香ばしさが増すそう。

「ほうれん草のベーコン・生ハム巻き」は、ほうれん草と一緒に巻く薄焼き卵の色合いが華やかで、一口サイズでつまみやすい一品。生ハムやベーコンで巻くので、日本酒やワインと相性が良く、豊田部長は「おつまみに最適、また、子どもさんも食べやすいので、家庭円満のレシピ。栄養たっぷりなので是非、作って食べてほしい。」と笑顔いっぱい料理し、ほうれん草の魅力アピールされました。



【写真は(左)豊田部長、(中)森本アナウンサー、(右)関野副部長※調理完了後、撮影のために一時的にマスクを外しています。】

さくらももいちごで 村の受験生を応援



佐那河内ももいちご部会は、2月16日、村の受験生を応援するため、佐那河内中学校の3年生15名に特産の「さくらももいちご」を贈りました。

2016年から続けており、今年で6回目になります。

同部会栗坂政史部会長と部員の谷渕栄治さんが同校を訪れ、いちごを一人一人に配り、生徒たちはいちごを手にし、「さくらさくらももくひょうもって！ いちごうかく！」と「さくらももいちご」と合格を掛けた合言葉を全員で唱和しました。

いちごを食べた生徒たちは、「受験までのラストスパート、村の方も応援してくれているので、全員で合格できるように頑張ります。」と意欲を燃やしていました。

栗坂部会長は「残り少ない制限された時間の中で入試に挑む彼らの励みになれば。」と期待を込めました。

(▶写真は佐那河内中学校の教室にて、生徒たちにさくらももいちごを配る栗坂部会長【奥】と谷渕さん【手前】)

佐那河内ももいちご部会は、日本相撲協会へ今場所(東京都・両国国技館)の懸賞の申し込みを行いました。懸賞旗で「さくらももいちご」のPRを行い、宣伝効果を期待しています。懸賞金は部員から集めている宣伝広告費を積み立てたものです。

懸賞旗は昨年3月に大阪で開催された春場所の懸賞に向け制作していましたが、コロナウイルスの影響で春場所が無観客となったため、懸賞を見送っていました。旗のデザインは、さくらももいちごの化粧箱のパッケージをモチーフにしています。

今年は、この旗が力士の勝ち越しの祈願と、国の象徴であるさくら開花を告げるように土俵を彩ります。

初日3月14日から千秋楽の3月28日までの15日間、結びの一つ前の取り組みに懸賞を懸けます。場内アナウンスは「村からの贈り物さくらももいちご。」

部会員には、大相撲ファンが多く、懸賞旗は、これまでの努力の積み重ねを示す結晶であり、さらなる生産意欲向上につながると話しています。高齢の部会員には「まだまだ生産を続けていく張り合いになる」という人も。

同部会栗坂政史部会長は「名前を知らなければ存在しないのと同じだ。今後、一層のPRに向け、まずは多数の人に『さくらももいちご』の名前を覚えてもらうきっかけを作りたい。」と意欲を見せました。



(▶写真は懸賞旗を掲げる栗坂部会長)





みなさん、こんにちは。徳島往診クリニックの吉田です。いよいよ、3月4日から徳島県内の医療従事者に対するファイザー製新型コロナウイルスワクチンの優先接種が始まりました。4月からは高齢者の接種が始まる見通しとされていますが、現時点で日本が契約した新型コロナウイルスワクチンは次のようなものです。

1. 米ファイザー製 1億4400万回分：医療従事者への先行接種開始済み
2. 英アストラゼネカ製 1億2000万回分：厚労省が審査中
3. 米モデルナ製 5000万回分：3月5日に厚労省へ承認申請

前回お話ししましたとおり、今後高齢者＝約3600万人は4月に開始、続いて基礎疾患のある人＝約820万人、高齢者施設などの従事者＝約200万人に、一般の人へはさらにその後の順に接種を進める見通しですが、やはり気になるのはその安全性・副反応です。副反応には、接種直後に起きるものと長い時間が経って現れるものがあります。接種直後のものの対策として、接種後15分間はそこに留まって医療者の観察を受けることとされています。既に接種の始まっている米国のデータ（米疾病対策センターの1月27日時点のまとめ：摂取後1週間以内に副反応調査システムに登録された、それぞれ約100万人の報告の内訳）によると、ファイザー製のワクチン接種後には次のような副反応が認められています。

	1回目	2回目
・接種部位の痛み	67.7%	74.8%
・倦怠感	28.6%	50.0%
・頭痛	25.6%	41.9%
・筋肉痛	17.2%	41.6%
・寒気	7.0%	26.7%
・発熱	7.4%	25.2%
・接種部位の腫れ	6.8%	26.7%
・関節痛	7.1%	21.2%
・吐き気	7.0%	13.9%

ちなみに同ワクチンは通常、1回目の接種から3週間後に2回目の接種を受けることとなっています。

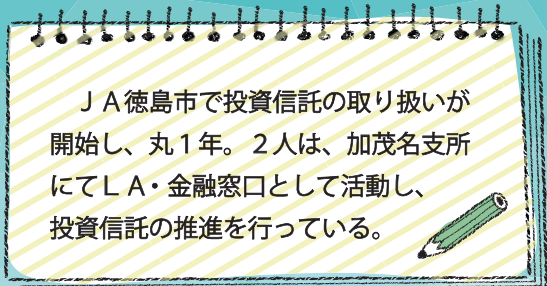
また、最も懸念される「アナフィラキシーショック」は、米国では約20万人に1人の割合で起こったと報告されています。アレルギーなどが体内に入ることによって、複数の臓器や全身にアレルギー症状が表れ、命に危険が生じ得る過敏な反応が出ることをアナフィラキシーといいます。その中でも血圧低下や意識レベルの低下、失神を伴うなど、重症の場合をアナフィラキシーショックといいます。日本では3月6日までに20歳代と30歳代のいずれも女性・各1名で、アナフィラキシーを認めたと報告されていますが、いずれの方も回復・軽快しています。

徳島県は、4月からの高齢者への接種開始に備えてワクチン接種による副反応などに関する相談に応じるコールセンター（フリーダイヤル：0120-808-308）を開設し、安心して摂取できる体制を整えています。



連載 vol.8 “ほなけんがんばるんじょ”

「投資信託 取り扱い開始から1年」
加茂名支所 金融共済課 近藤 祐 (L A)
大森 加奈子



JA徳島市で投資信託の取り扱いが開始し、丸1年。2人は、加茂名支所にてL A・金融窓口として活動し、投資信託の推進を行っている。

大森：「日本では個人資産を投資運用する人が少ない状況です。それは昔、貯金利率が高かったため投資の必要性を感じない人が多かったからかもしれません。そこで、現在は低金利時代のため、投資信託も資産形成の一つの選択肢として考えてみませんか？と案内しています。特にNISAは少額から運用が可能なため、初心者でも始めやすいです。利益（売却益・分配金等）にかかる税20.315%が非課税になるうえ、国は投資を増やし経済成長を促すように、手数料面で優遇しています。日本人は資産に対して保守的な概念の方が多い傾向がありましたが、低金利の今、資産を投資にあてることは時代に合っていると思います。投資してお金の価値を固定させず「お金を育てる」という選択肢もあるということをもっとたくさんの人に知っていただきたい。」（※復興特別所得税を含む）

推進にあたり注意していることは？

近藤：「強引なセールスではなく、ガイドブック、診断シート等を使用し、お客様個人個人の資産に対する概念を理解し、順序を踏んでしっかり説明をしています。メリットだけでなく、リスクについてもしっかりと伝えていきます。また、断定的な発言は決してしてはいけません。商品について理解してもらった際には、非常に長い時間を要しますが、不安要素を取り除き、安心、信頼していただくためには重要なステップだと考えています。」

大森：「近藤さんは、お客様と会話するためにあらかじめ、しっかりと資料を用意しているのですね。見習いたいと思います。また、わからないことは徹底して調べています。お客様との会話で出てきた専門用語や、わからないことはよく近藤さんに聞いています。」

近藤：「徳島は意外に投資の経験値の高い方が多いです。」



長年、資産を運用されてきた方との会話の中で自分の知らない昔の出来事なども調べるようにしています。話をすることでその方が、どんな成功や失敗の経験をしていて、その経験をふまえて現状どのような投資傾向にあるかを理解できることもあるので、また、株式市場は毎日動いているのでニュースのチェックはとても大切だと思っていて、欠かさずチェックするようにしています。大森さんは、僕と違い、とにかくフットワークが軽いので、すごく支えられています。」

お二人、助け合って、良好なチームワークの体制ができていますね。

大森：「加茂名支所では山田支所長の発信で勉強会を開いています。今後、投資信託が全支所取り扱いはなることを見越して『みんな一緒に頑張ろう』と声掛けをしていきます。」

支所長は朗らかで優しい。外務から帰ってきたら支所長のほうから必ず声をかけてくださいます。」

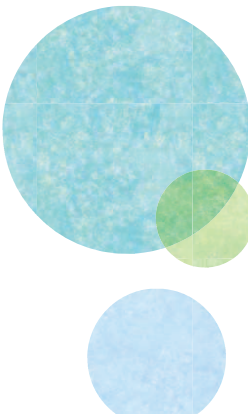
近藤：「涉外で上手いかなかったです。落ち込んでいても、気を遣わせることなくナチュラルに話かけてくれます。気持ちよく和らぎます。人柄の良さだと思えます。」

そんな山田支所長に話を聞くと山田支所長「2人ともチャレンジ精神旺盛なので、頑張る意欲をサポートしているだけです。楽しいことをみんなで分かち合い、苦しく辛いこともみんなで分け合える。みんなやるから楽しくできるというのがモットー。職員の様性を尊重し、それぞれの個性、特性が集まることで相乗効果を生まれるし、苦難も分散できる。まさに投資信託のファンドみたいなもの。」と支所のスタイルと投資信託を掛けて明るく話された。

今後の目標は？

大森：「コロナ禍で若い世代の方にも投資をする人が増えていきます。私自身も早く投資信託の勉強をはじめれば良かったと後悔しています。経済はどんなにマイナスがあっても10年のサイクルで回復する傾向があるので、一時的なマイナスに一喜一憂せず、長期的にみていただくことや、投資信託について様々なことを、理解すればするほど『マイナスの時期も攻めの時期でもある』と解釈できるようにになりました。それを皆さんにも理解してもらいたい。」

近藤：「投資信託に対して抵抗のある方にも、理解してもらいたい。多くの人に商品を広めていくのが使命だと思います。まずは、誰にでもわかりやすい説明ができるように今後も努力していきたい。」



新型コロナウイルス感染症拡大に伴う 米生産者への支援について

平素は、農協事業全般にわたり格段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症につきましては、第二波・第三波の到来により県内においても感染者が相次いで確認されていること、また収束の見通しについても依然不透明な状況にあり、生産者の皆さまにも大きな影響を与えています。

また、緊急事態宣言における不要不急の外出自粛、飲食店の時短営業要請などにより、外食産業における主食用米への影響は著しく、令和3年産の主食用米についても、非常に厳しい状況が予想されます。

かかる状況を踏まえ、JA徳島市としては行政の高収益作物次期作支援交付金等の支援施策から除かれ、農産物販売単価が前年比で7%以上減少した品目であり、今後苦境にたたされることが予想される米生産者の皆さまを支援することを目的として、下記の施策を実施することといたしましたのでご案内申し上げます。

支援対象者及び金額

- ①年産 令和2年産米
- ②対象者 当JAへ出荷した主食用米（1～3等）の生産者
※規格外・飼料用米・検査のみは対象外
- ③金額 1袋（30kg）当たり338円
- ④品種 指定なし
- ⑤振込日 令和3年3月中
- ⑥口座 農協指定口座とする（米精算代金の振込口座）

なお、今回の支援を以って、令和2年産の追加金とさせていただきますのでご了承くださいようお願い申し上げます。

不動支所ATM移転のお知らせ

廃止 旧不動支所ATMコーナー
(不動本町2丁目183-1)

3月10日をもって取扱終了致しました

新設 新不動支所（不動西町1丁目730-2）

物流センター横にATMコーナーを設置し
硬貨機能付きATMを導入



3月16日より稼働致しております

嵯峨事務所ATM廃止のお知らせ

4月30日をもって廃止致します

理事会だより（令和3年2月25日）

協議事項

- (1) リスク評価書（特定事業者作成書面等）の改正について
- (2) 3億円超の信用の供与について
案件①
案件②
案件③
- (3) 組合と理事の利益相反取引について
- (4) その他

報告事項

- (1) 令和2年度みのり監査法人による期中監査Ⅲの実施について
- (2) 債権回収について
- (3) 新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う米生産者への支援について
- (4) 県域物流サービスの対象エリアの改定および固定車両の減車について
- (5) 理事会決議事項処理状況報告
- (6) その他

島田清弁護士無料法律相談

通常通り開催いたしますが新型コロナウイルスの感染状況によりましては開催できない場合もございます。

日時 第3土曜日 9:00～12:00

金融共済部へ事前に予約が必要

申込先 ☎ 088-622-8003

場所 本所1階金融相談室

賀上延啓税理士事務所の無料税務相談

下記の通り開催予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況によりましては、開催できない場合がございますのでご了承ください。

日時 4月13日(火)、20日(火)、27日(火)
9:30～15:00

申込先 総務部へ事前に予約が必要

☎ 088-622-6335

場所 本所1階ローンセンター

